

第1回 開催報告

出席者

【委員】

出席者：黒田晃司、永谷嘉規、小林智尚、水内智英、谷口清治、
齊藤公彦、柴田永治

欠席者：永井明子
（順不同、敬称略）

【事務局】

町長 渡邊公夫
総務部長 寺本公行
企画調整担当参事 葛西孝啓
企画課 各務元規 高木雅春 川上敏弘

次 第

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - (1) 御嵩町人口ビジョン・総合戦略の策定について（概要）
 - (2) 御嵩町人口ビジョン（骨子案）
 - (3) 御嵩町総合戦略の骨子案・提案事業案等について
 - (4) 策定スケジュールについて
- 5 その他

配布資料

- 次第
- みたけ創生有識者会議委員名簿
- みたけ創生有識者会議設置要綱
- 資料1 御嵩町人口ビジョン・総合戦略の策定について
- 資料2 御嵩町人口ビジョン（骨子案）
- 資料3 御嵩町総合戦略の骨子案・提案事業案等について
- 資料4 策定スケジュールについて
- 参考資料統計からみた御嵩町の現状

会議で出た主な意見

▶ 人口を呼びこむターゲットを絞る

価値観を共有できる人を呼び込む

- 子どもが成長した後、御嵩町に家を建てるのではなく、名古屋市や可児市、美濃加茂市でマンションを買う人が多い。御嵩町は、住む環境はよいが、若い人には人気がないのではないか。
- 何が自分にとって大事かという価値観に沿って、都市部に行く人もいれば、中山間地に行く人、海際に行く人もいる。超自然、超文明で、ライフスタイルが二極化しているように思う。
- 自然を体験させてあげたいという考え方の子育て世代にとっては、御嵩町は魅力的なまちであると思う。

若い女性を呼び込む

- 若い女性に魅力あるまちづくりをすると、男性もついてくる。

町内企業の労働者を定住につなげる

- 外国人労働者を呼ぶのも策としてはあり。
- 工業団地での町内雇用が少ない。外から来ている人に御嵩町に住んでもらうようにするためにどのような施策を講じればよいのかを考えていかなければならない。

子育て世帯

- 上之郷地区は、出生数は毎年ほぼ一桁となっているが、小学校にあがる頃には二桁となっており、子どもが就学するまで町外に住んでいた人が帰ってきているという現象が考えられる。そのあたりでどう取り組んでいくか。

▶ 御嵩町の未来をデザインする

- 住民の意識に働きかけるのがデザインである。「シビックプライド」という言葉があり、「私が自分のまちをつくっている、まちの一員である」という自負心のことをいう。それをどう高めていくかというところにデザインが使えるのではないか。
- 北名古屋市の事例。ベッドタウンとしての色合いが濃いまちであるが、ものづくりをしている人たちにインタビューをして回ると、それぞれに小さな物語があり、それをつないで映像化したり、イベントをすることで、まちの良さをもう一度認識することができた。御嵩町でも、慣れてしまっていたことで気がつかなかった自然がたくさんあること、長い歴史の中で培ってきたよいところを再確認できれば、デザインにも生きてくる。

▶ 御嵩町の“魅力”とは？

- 自然環境が一番の魅力である。
- 最近では、インターネットの関係で、在宅でもできる仕事、女性だからこその仕事も増えている。そのようなところに取り組んでいくことで御嵩町としての魅力も出てくるのではないか。
- リニア新幹線ができれば、中津川から品川まで30分強となるので、週1回くらい東京に行けばよいという考え方の企業であれば、それほど大きな企業でなくてもできる時代となる。
- せっかく古い宿場町があり、趣のある古民家や土蔵等があるので、もっとうまく活用する手立ではないか。
- 外から来た人だけでなく、住民目線で新しい発見があると、「シビックプライド」を感じてもらえるまちづくりができるのではないか。

▶ 子育て・教育について

- 保育施設任せにして家庭が何もしない、という子育てはおかしいと感じている。親が家庭で育て、その上で各園や保育施設が助けていく、というスタンスで保育を行っている。
- どうしても預けざるを得ない保護者の方もいるので、できる限り保護者との良い関係をつくり、保育園・幼稚園と保護者が手を携えて教育をしていけるような園づくりを進めたい。

▶ “面白さ”のある取り組み

- 面白さがあると思って取り組まないと、まちの運営や経営をしても面白くなくなってしまう。自分が楽しみながら、やれることに喜びを感じながら取り組んでいきたい。
- 日本中でこのような会議が行われているため、どこのまちでも、大抵は同じ答えになる。そこをもう一ひねり、もう一歩踏み込んでやっていかねばならないと思っているのが、御嵩町である、という認識をしていただければありがたい。